

# 甲南大学法科大学院入学試験問題について

2018年度春入学

一般入学試験（C日程・2月17日分）

## 試験科目：民法

### 1. 出題趣旨

設問1は、取得時効についての基本的理解を確認する問題である。条文から取得時効の要件を正しく抽出し、各要件の充足の有無を、必要であれば要件の意味を詳らかにしながら説明できるかを問うている。

設問2・3は、設問1の発展として、対抗問題に関する有名論点である「時効と登記」の理解を問うた。時効完成と第三者の関与の先後によって第三者の立場が異なってくることを示し、時効取得者と第三者との法律関係を正しく説明できるかが問われている。

### 2. 採点実感

取得時効の成立については、その成立要件のうちとくに所有の意思について判断基準を示して論じる解答が少しでもあることを期待していたが、多くの答案は推定規定に触れるのみであり、実体法的な理解を示す答案はほとんどなかった。

時効と登記の問題については、時効完成前後で第三者の法的地位が異なることはほとんどの答案が理解できていたが、時効完成前の第三者との関係で登記が要らないことの原因を正しく記述できている答案は多くはなかった。

### 3. 学習方法

基礎的概念や要件・効果といった制度の骨格を正確に理解し習得するということを徹底することが大切である。また、知識を「使える」ものにするためには、知識を表面的に捉えるのではなく、つねにその背後にある理論との結び付きを考える必要がある。そのためには日頃から基本書を読まなければならない。安直な学習は役に立たない。